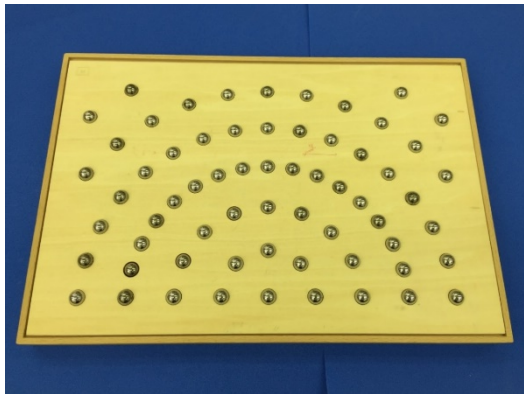


「手指探索行動拡大を促す平面玉落とし教材」
製作方法・教具セット説明書・指導解説書(2020.4.1)



I 教具のセット

- (1) 枠 (内寸 286×436×30 mm, 外寸 314×464×30 mm)
- (2) 板 (縦 30mm, 横 45mm, 厚さ 4mm)
- ・ 30 mm課題 (穴の間隔が 30 mmの同心円状のもの)
- ・ 50 mm課題 (穴の間隔が 50 mmの同心円状のもの)

※使用する玉は直径 15 mmのスチールボール 100 個

(別売り, 舟辺精工 <http://www.pluto.dti.ne.jp/~funabe/> で購入可)

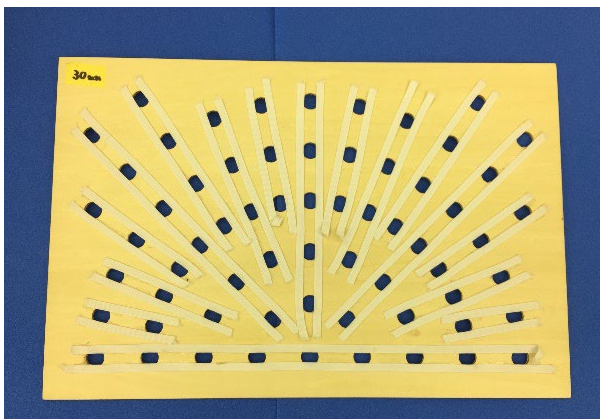
※本教材を使用するには、板の裏面にゴム紐を張り、穴に玉を載せても落下しないよう手を加える必要があります。詳細については「II 教材を使用する前に」をお読みください。

II 教材を使用する前に

教材を使用する前に、板の裏面にゴム紐を張ります。

用意していただくもの

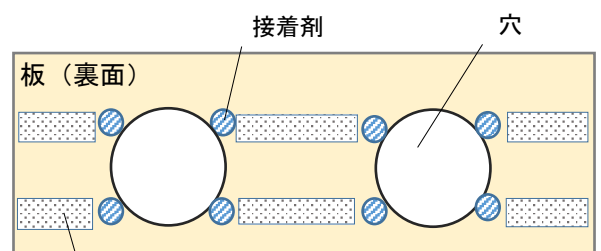
- ・ 板
- ・ 接着剤 (木材・布にも使用可能なもの)
- ・ 両面テープ
- ・ 手芸用ゴム紐 (5 mm幅のもの)



板の完成形 (裏面)

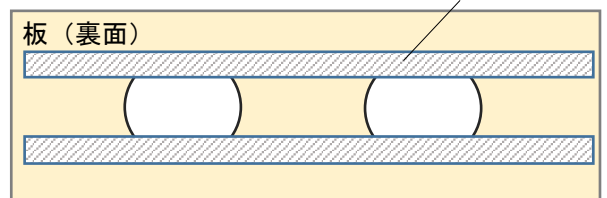
◆作り方◆

- ① 下図のように板の裏面に両面テープを細く切ったものを貼り、接着剤を少量塗ります。



両面テープを細く切ったもの

- ② 両面テープと接着剤の上にかぶせるようにして、ゴム紐を張ります。



※ここではより微細な力でも玉が落下するよう、ゴム紐は5 mm幅のものを使っていますが、ゴムの幅を変えることで玉を落とすのに必要な力 (=難易度) を調節することができます。

Ⅲ 指導解説書

1. **目的**：手指探索・操作の発達が初期的段階にある視覚障害児の探索意欲を引き出し、手指探索行動の獲得および拡大を促す。
2. **対象**：知的発達水準が概ね1歳半以前にある視覚障害児
3. **課題の概要**：板の穴すべてに玉を載せ、対象児に穴をできるだけ多く落とすよう促し、表面上を探索させる。
4. **指導の留意点**
 - (1) **教材の導入**：最初に導入する時は、指導者がいくつか玉を落として、どんな音がする教材かを知らせる。初めてのものはやり方がわからないため、子どもの正面に教材を置いたら、子どもの後ろから手を添えていくつか玉と一緒に落とし、手の動かし方を教える。玉が落とせたら「落ちたね」「上手だね」と声をかけ、課題ができていることを教えるとともに、やる気が持続するようモチベートする。慣れない課題への適応に困難を示す子どもについては、指導者が歌・手遊び活動によって外界（他者）への興味を引き出したり、好きな課題に取り組みせたりして、様子を見ながら玉落とし課題に誘い、無理強いしないことが大切である。
 - (2) **探索の引き出し方**：課題に慣れないうちは、板の全体像や自分がどれくらい玉を落としたかがわからないため、子どもが板の上を十分に探索できていない時には、「まだあるよ」「探してみよう」と声をかけたり、「おなかの方にあるよ」「遠くの方にあるよ」などの具体的な声かけをしながら、子どもの手をとって玉に触れさせたりすると探索が出やすい。
 - (3) **穴の間隔の違い**：穴の間隔が30mmの課題と50mmの課題のうち、対象児にどちらの課題を実施するかという点については、対象児の手の大きさや運動能力、触探索の様子などを見て、指導者が決定する（手の大きい児童には50mm課題など）。

（文責：長野県松本盲学校 岡宮彩奈）

Created by Office SASHIMA

連絡先 佐島 毅 筑波大学人間系（障害科学域）
E-mail : sashima-t62@human.tsukuba.ac.jp
〒112-0012 文京区大塚 3-29-1(422)
Tel / fax : 03-3942-6854
筑波研究室：人間系学系棟 B202

参考文献リスト

- 阪本悠香・佐島 毅(2013)盲児用触探索教材としての平面空間上における玉落とし課題の有用性と手指探索行動の変化. 障害科学研究, 37, 159-168.